

# 定期作況報告

(第4号 平成17年8月20日現在)  
北海道立上川農業試験場

## 1. 気象概況

7月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々0.8、0.6 低かった。降水量は平年より16.7 少なく、平年対比76%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より15.8時間少なく、平年対比65%であった。夏日（最高気温25 以上）は8日で、真夏日（最高気温30 以上）は無かった。

8月上旬：最高気温および最低気温は平年より各々3.3、2.7 高かった。降水量は平年より20.4 多く、平年対比144%であった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より11.9時間多く、平年対比129%であった。夏日は9日で、そのうち真夏日は3日であった。

8月中旬：最高気温および最低気温は平年より各々3.3、2.4 高かった。降水量は平年より5.7 mm少なく、平年対比79%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より13.2時間多く、平年対比128%であった。夏日は9日で、そのうち真夏日は3日であった。

7月下旬から8月下旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温( )	25.9	26.7	0.8	29.0	25.7	3.3	28.3	25.0	3.3	27.7	25.9	1.8
最低気温( )	16.8	17.4	0.6	19.7	17.0	2.7	18.1	15.7	2.4	18.1	16.7	1.4
平均気温( )	21.0	21.7	0.7	23.9	21.1	2.8	22.9	19.9	3.0	22.5	20.9	1.6
降水量( )	54.0	70.7	16.7	67.0	46.6	20.4	22.0	27.7	5.7	143.0	145.0	2.0
降水日数(日)	3	6	3	3	5	2	1	4	3	7	15	8
日照時間(h)	29.6	45.4	15.8	53.4	41.5	11.9	60.5	47.3	13.2	143.5	134.2	9.3

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

1) 水 稲 : 平年並

事 由：幼穂形成期後の7月上旬に数日間低温が続いたが、それ以降の生育は好天に恵まれ順調で、出穂期は各品種・苗とも平年より1~2日早かった。穂揃いは良好で穂揃い日数は各品種・苗とも平年並か1日短かった。最終止葉葉数は成苗「きらら397」が平年に比べ0.4枚多く、中苗「きらら397」および中苗「ほしのゆめ」は平年より0.3~0.4枚少なかった。

稈長は各品種・苗とも5~7cm程度短かった。穂長は中苗および成苗の「きらら397」が平年並、中苗「ほしのゆめ」はやや短かった。当たり穂数は中苗「きらら397」が平年並であるものの、中苗「ほしのゆめ」および成苗「きらら397」は平年に比べ少なかった。

穂揃いが良かったこと、および出穂、開花後の天候が良好であり、8月20日現在の生育が進んでいることから登熟歩合が高くなることが予想される。

以上より、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品 種 苗	出穂期(月・日)			穂揃い日数(日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	7.25	7.27	2	5	6	1
ほしのゆめ 中苗	7.25	7.26	1	6	6	0
きらら397 成苗	7.23	7.24	1	6	7	1

注1)平年値は平成10~16年7カ年のうち平成10年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて早(出穂期)あるいは短(穂揃い日数)を示す。

表3 8月20日現在の本田生育

品 種 苗	最終止葉葉数(枚)		
	本年	平年	比較
きらら397 中苗	11.0	11.4	0.4
ほしのゆめ 中苗	10.2	10.5	0.3
きらら397 成苗	11.4	11.0	0.4

品 種 苗	稈長( )			穂長( )			穂数(本/ )			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)
きらら397 中苗	61.6	66.9	5.3	16.5	16.7	0.2	698	708	10	99
ほしのゆめ 中苗	64.7	71.8	7.1	15.5	16.2	0.7	708	775	67	91
きらら397 成苗	59.6	66.3	6.7	16.6	16.5	0.1	622	744	122	84

注1)平年値は平成10~16年7カ年のうち平成10年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて減を示す。

2) 秋まき小麦： やや良

事由：成熟期は、平年と比較して「ホクシン」が3日遅く、「タイセツコムギ」は2日遅かった。千粒重は平年並みであり、リットル重は「ホクシン」が平年並み、「タイセツコムギ」は平年よりやや重かった。総重はほぼ平年並みであったが、穂数が平年より8%多く、子実重は「ホクシン」で平年比114%、「タイセツコムギ」で112%と多収であった。

したがって、目下の作況はやや良である。

表4 秋まき小麦の収量

品 種 名	成熟期(月日)			リットル重 (g)			千粒重(g)			穂数(本/ )		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホクシン	7.19	7.16	3	781	777	4	36.5	36.5	0	700	648	52
タイセツコムギ	7.23	7.21	2	778	767	11	38.6	38.6	0	613	569	44

品 種 名	総 重 (kg/10a)			子 実 重 (kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホクシン	1505	1493	12	672	591	81	114	100	14
タイセツコムギ	1376	1389	13	634	566	68	112	100	12

注1) 平年値は、前7か年中、平成13年、14年(収穫年度)を除く5か年の平均値

2) は平年より減を示す。

3) 大 豆： やや不良

事由：8月が高温に経過したため、生育は進んでいる。両品種とも主茎長、主茎節数は平年より若干下回っているが、分枝数は平年よりやや多い。開花期前後の低温と7月の寡照傾向が影響し、着莢数は平年を下回っている。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表5 8月20日の大豆の生育

品 種 名	主 茎 長 ( )			主 茎 節 数(節)			分 枝 数(本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	57	61	4	10.0	10.1	0.1	8.2	7.4	0.8
トヨコマチ	60	64	4	10.5	11.0	0.5	7.8	6.4	1.4

品 種 名	着 莢 数(個/株)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	80	84	4
トヨコマチ	73	82	9

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年及び平成14年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

(お詫びと訂正)

7月定期作況報告の「トヨコマチ」の開花期について誤りがありました。お詫びいたしますとともに、7月定期作況報告について下記の通り訂正いたします。

「事由：6月は平年より高温に推移したため、開花期は「トヨムスメ」で平年より3日、「トヨコマチ」で5日早かった。」

表6 7月20日の大豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	7.10	7.13	3
トヨコマチ	7.7	7.12	5

4) 小 豆 : 平年並

事由：気温は7月下旬は平年よりやや低かったが、8月上中旬は高温に経過したため生育は進んでいる。「サホロショウズ」では既に熟莢が多く見られ、成熟期は平年より早いと推察される。また「エリモショウズ」には倒伏が多く見られる。主茎長は平年よりやや短いが本葉数は平年並みかやや多い。分枝数は「サホロショウズ」は平年並みだが「エリモショウズ」は平年より少ない。

したがって、目下の作況は平年並である。

表7 8月20日の小豆の生育

品 種 名	主 茎 長 ( )			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	58	63	5	11.5	11.3	0.2	6.2	6.2	0
エリモショウズ	56	61	5	13.2	12.1	1.1	4.9	6.4	1.5

注1) 平年値は、前8か年中、平成14年(最豊)、平成16年(最凶)及び平成12年(参考)を除いた5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

5) ばれいしょ : 不良

事由：「男爵いも」は7月下旬に倒伏が始まり、現在ほとんどの株が倒伏している。また、8月中旬になり枯葉や茎の黄化がみられる。「農林1号」は前期同様、茎長は平年をやや下回っている。過去5年間の試し掘りの結果と比較すると、株当たり上薯数は3個少なく、10a当たり上薯収量は10%程度少なく、澱粉価は並みから2%低い。

したがって、目下の作況は不良である。

表8 8月20日のばれいしょの生育

品 種 名	茎長(cm)		
	本 年	平 年	比 較
農林1号	71.4	78.9	7.5
男爵いも	-	-	-

注1) 平年値は、前6か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

6) てんさい : 平年並

事由: 前節まで干ばつのため生育が停滞していたが、7月下旬～8月上旬のまとまった降雨により生育が回復し、生葉数は平年よりやや多く、草丈と根周が平年並みである。

したがって、目下のところ作況は平年並である。

表9 8月20日のてんさいの生育

品 種 名	草丈(cm)			生葉数(枚/株)			根周(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
モノホマレ	61.8	61.1	0.7	32.7	29.6	3.1	30.1	29.7	0.4

注) 平年値は前7か年中、平成11年、15年を除く5か年の平均値。